まちの話題

青島広志コンサート in 八鹿青渓中学校

10月5日、今春開校した八鹿青渓中学校の体育館で、青島広志さんのコンサートが開かれ、八鹿青渓中学校の全生徒と八鹿地域の小学校6年生が鑑賞しました。

このコンサートは、青島さんに八鹿青渓中学校の校歌を作詞作曲していただいた縁で実現したものです。市民有志が実行委員会を組織し、企画・準備・運営にあたり、前日の八鹿文化会館でのコンサートに引き続いて開催されました。

「モーツァルトの生涯」という約1時間のコンサートは、青島さんと4人の声楽家による本格的なもので、青島さんの軽妙なおしゃべりを交えながら、声楽家たちはすばらしい歌声を披露しました。

コンサートの最後には、出演者と生徒児童が全員で校歌を歌い、体育館は賑やかな雰囲気に包まれました。

八鹿青渓中学校で行われたコンサート

やぶお手玉の会・全国大会で「ぬくもり賞」受賞

やぶお手玉の会（会員20人）が10月16日に愛媛県新居浜市で開催された第16回全国お手玉遊び愛媛・新居浜大会に出場。全国から15チームが参加する中、今回、初めて種目となった「寄せ玉遊び」で「ぬくもり賞」を受賞しました。

文献によると、お手玉遊びが日本に伝えられたのは奈良時代とされ、その中の一つに「石なご遊び（一つの親玉を上に投げ上げている間に、下の石を拾っていく遊び）」の遊びがありました。江戸時代後半になると布のお手玉が登場し「石なご」は次第になくなり、今では、旧大屋町に「石なんご」として残っているだけとなりました。

当日は、6人が参加。「ひとひとひろいが せかいじゃ」と、歌いながら、10個まで拾い上げていきました。

「寄せ玉遊び」の継承者は年々減少しており、今回、全国各地の遊びをお互いに披露しあうことで、昔の遊びが伝承され、その輪が広がりました。

全国大会で「石なんご」を披露する、やぶお手玉の会会員

芳醇でまろやかな味に完成・仙櫻蔵出し

10月13日、大屋町明延の明延鉱山探検坑道内の「明寿蔵」で、今年5月に蔵入れした純米吟醸酒「仙櫻」の蔵出し式が行われ、関係者ら約40人が新酒の完成を祝いました。

仙櫻は、市が山陽盃酒造（宍粟市、壷阪興一郎社長）の協力を得て、大屋地域で生産された有機米「蛇紋岩米」と氷ノ山の湧き水を使用して醸造している純米吟醸酒です。また、この坑道内の温度は、12度から15度に保たれており酒造りに適しています。

新酒を手に取る広瀬市長（左）と壷阪社長（右）

同日行われた蔵出し式では、テープカットの後、関係者らは半年間熟成された「仙櫻」を味わいました。壷阪社長は「今年の猛暑の影響もなく、より芳醇な味わいで口の中にうまみが広がり、香りもまろやかで満足のいく出来になりました」と話しました。

当時の思い出甦る「あけのべ一円電車まつり」

10月24日、大屋町明延で「あけのべ一円電車まつり」が行われました。

この祭りは、明延鉱山の歴史や魅力を紹介しようと、地元住民らでつくる「鉱石の道」明延実行委員会などが主催で行っているもの。市内外から多くの観光客が訪れました。

当日は、一円電車の客車体験や、地区内を巡るスタンプラリーなどが行われ、一円電車「くろがね号」の客車体験では、新設された約70㍍の常設レールの完成をくす玉割りで祝福し、復刻した切符を手に観光客らが次々と乗車。車体が揺れてきしむ音などに歓声を上げたり、当時の思い出話しなどをしながら、鉱山鉄道特有の雰囲気を楽しんでいました。

常設レールに乗せられた一円電車「くろがね号」に乗り込む観光客

赤米を刈り取る参加者

赤米の収穫祭で交流深める

10月24日、八鹿町中村区で阪神間の住民との交流を楽しむ「赤米収穫祭」が行われました。

同区では赤米栽培を20年近く続けており、初めは八鹿町内の住民交流でしたが、平成6年に開催された「但馬・理想の都の祭典」を契機に都市住民との交流が始まりました。

この日は、大阪や神戸から100人以上が参加して、赤米の稲刈りやサツマイモ掘りに挑戦しました。

小雨の降るあいにくの天候でしたが、参加者らは、地元住民から稲刈りの仕方の説明を受け、1株ずつ丁寧に刈り取っていきました。

初めての稲刈り体験などに「とても楽しいです」と声を弾ませていました。

拝啓　市民の皆様

この10月末で市長就任から2年が経過しました。あっという間の2年間でしたが、市民をはじめとする多くの皆様からの温かい励ましをいただき「元気・笑顔・思いやり」と「市民のためのまちづくり」を目標に掲げ「ひろせ栄マニフェスト」の推進を図ってまいりました。

中でも、過疎や高齢化、人間関係の希薄化などによるコミュニティの脆弱化、破綻寸前の財政などの対策、合併後の市民文化の醸成は、まちづくりの根幹に関わる課題でしたので、最優先課題として取り組んでまいりました。コミュニティの脆弱化の問題については、まちづくり基本条例の施行と市民協働による地域自治協議会の設立に着手し、地域再生の道筋をつけることができました。また、本市発足以来の懸案である財政問題については、徹底した行政改革を行うことで、再建の軌道に乗せることができました。

市民の一体感の醸成については、各種団体の統合を推し進める一方、新たな市民文化を育てるため、芸術やスポーツイベントの開催に努めてきました。今回その一環として、養父市音頭を作成しました。音頭は、理屈抜きに市民が一体となり心を通い合わせることのできる場を創り出してくれます。10月から11月にかけて各地域で行われた文化祭や芸能祭でお披露目いたしましたが、好評でした。今後とも各地区・団体などで行われる多くの行事等で唄い踊られ、そうして末永く市民に愛されることを願っています。

市長　広瀬　栄